

天翔狩人摩亜屈

データ

データ	
読み	てんしょうかりゅうどまーくつー
所属	頑駄無軍団光の七人衆（天翔狩人三兄弟長男）
デザイン機体	<u>武者頑駄無摩亜屈</u> （SD戦国伝 武者七人衆編）
作品	SDガンダムフォース絵巻 武者烈伝武化舞可編武者烈伝・零

内容

頑駄無軍団が誇る光の七人衆の一人で霊峰・悪無覇域夢山を守護する天翔狩人三兄弟長兄。先祖伝来の飛行能力を生かした空中戦に長けており、悪無覇域夢山で修行を積んだ武者。旋風を思わせる激しい二刀流の使い手で射撃の腕もかなりのもの。武者大鷲に変幻する能力を持っており、頑駄無軍団と時隠軍団が戦争状態になるまでは逞鍛や衛有吾と共に悪無覇域夢山にいた。「摩亜屈」の名は彼らの一族に先祖代々受け継がれて来たもので素質がありながらも未熟な面のある二人の弟を厳しく鍛えてきたが悪無覇域夢山山頂での「闇邪神吏偶遮光」との戦いで致命傷を負い、逞鍛と衛有吾を救うためにその身を散らす。摩亜屈三兄弟は戦武面を装着しているが摩亜屈のみマスクを装着していないのが特徴。なお、彼の死後は三兄弟の末弟である衛有吾がその名を襲名して二代目摩亜屈となった。

使用武器&支援メカ

■■天刃・空刃【てんじん・くうじん】

摩亜屈三兄弟が両腰に差している愛刀、因みに右側が天刃で左側が空刃。
本来は三人ともまったく同型の刀（鞘含む）を差しているのだがボンボン版では逞鍛や衛有吾（黒の騎兵）のものは刀の唾や鞘の形状が本来の物と微妙に違っている。

■■大鷲突銃【イーグルトップ】

腰に装備しているグレネード弾を発射する事も出来る摩亜屈三兄弟愛用の銃。

■■グレネード弾【ぐれねーどだん】

摩亜屈三兄弟が両腰に計四つ装備しているグレネード弾、大鷲突銃からの発射も可能。
自爆用の爆薬でもあり、摩亜屈は闇邪神吏偶遮光戦で逞鍛と衛有吾を逃す為に使用した。

■■強化パーツ【きょうかぱーつ】

駄舞留精太が鉄機武者の技術を応用して作った摩亜屈（衛有吾）用の武具、これを装着する事で通常時に比べて十倍のスピードでの戦闘が可能となる。
インストの説明文を見る限りでは二代目摩亜屈である衛有吾用の武具らしいが同じ武具が刃斬武の肩鎧になってたりするので先代が持っていたかは不明。

■■天翔大鷲【てんしょうイーグル】

摩亜屈三兄弟の兜と鎧、刀に大鷲突銃で構成されている守護メカ。
今作での武者イーグルは「守護獣」ではなく「守護メカ」らしい。

なお、衛有吾の武者大鷲とは構成が若干異なるらしい。

使用忍術&必殺技

■■高速戦闘形態【マッハバトルモード】

駄舞留精太が鉄機武者の技術を応用して作った強化パーツを装着した形態、これによって通常時に比べて十倍のスピードでの戦闘が可能となる。衛有吾と違い、背部に胸鎧が装着されず強化パーツの装着位置も上下逆。

■■重装鉄甲形態【フルアーマーモード】

胸鎧を装着して背部に強化パーツを装着したオリジナル形態の一つ。(H J 0 5 年 1 2 月号)

■■天翔大鷲形態【てんしょうイーグルモード】

高速戦闘形態から変形する摩亜屈の飛行形態、基本的に超武者大鷲形態と同じもの。

備考

火の鳥の脇立や天翔の神器を彷彿とさせる鎧兜を身に纏い、三兄弟と言う設定になった今回の摩亜屈、仁宇の「七人衆裏切り発言」により、早くから疑惑が向けられたが後に三人兄弟と言う事が発覚した。三兄弟と言う事が判明するまで裏切り説、洗脳説、擦り代わり説などが各地で飛び交い議論の的だった。(仁宇の爆弾発言がボンボン 0 4 年 1 2 月号、三兄弟と判明したのが H J 0 5 年 6 月号) その後、

H J 0 5 年 8 月号で満を持しての登場となったモノの今作の悲劇担当武者と言う事なのか登場直後に悪無覇域夢山山頂で闇邪神吏偶遮光と戦って深手を負い、自爆した。旧来通りの自然を愛する性格のようだが登場直後に死亡した為に詳細は不明。(本編登場後、すぐに死亡だから・・・) 多分、今回の七人衆で最も幸薄い人物。デザインは今西画伯、プラモ開発画稿は寺島氏が担当した。なお「摩亜屈」の名を継ぐ前の本名は不明。逞鍛、衛有吾が組織名だった事を考えるとカラバか??

参考資料

BB戦士 282 天翔狩人摩亜屈説明書&コミックワールド
講談社刊 SDガンダムフォース絵巻 武者烈伝武化舞可編(全3巻)
講談社刊 コミックボンボン04年6月号~05年11月号
ホビージャパン刊 ホビージャパン04年10月号
ホビージャパン刊 ホビージャパン05年6月号
ホビージャパン刊 ホビージャパン05年8月号
ホビージャパン刊 ホビージャパン05年11月号
ホビージャパン刊 ホビージャパン05年12月号
ホビージャパン刊 ホビージャパン06年1月号